

令和6年 1月発行

# さくら通信

《発行者》

さくら動物病院  
新聞編集委員  
滝澤  
武藤



新年明けましておめでとうございます



新春のお慶びを申し上げます。さくら動物病院一同、皆様にとって輝かしい新しい年が幕を開けましたことを心よりお喜び申し上げます。

皆様のおかげをもちまして23年目を迎えられました。

旧年中は多くの方々との出会いをいただき感謝します。治療を行うことで病気が治りご家族の喜ばれる顔に出会える嬉しい出会いもあれば、治療を行っても完治しない病気に出会うこともあります。完治に至らない病気と分かった時、その病気やその治療に対する考え方はご家族によって様々です。完治しない病気に対してどのように向き合い、どのように付き合っていくか。ご家族の方と一緒に考え、一緒に悩み、動物たちとご家族を支えていける動物病院でありたいと思っております。今後も地域の皆様に貢献できるよう努力していく所存であります。

当院はアットホームな地域に根付いたホームドクターであるとともに世界最高水準の医療を提供できる病院を常に目指しています。「地方だから治療できないので大学病院に行ってください」ということは言いたくありません。地方にいても動物たちには最高の医療を選択できる病院でありたいと思っております。近年、病院スタッフの努力のおかげで専門分野が充実してきました。特に眼科、再生医療、内科、消化管内視鏡、については十分満足していただける医療を提供できます。もちろん今後も専門分野を広げながら「人と動物の笑顔」の為に各スタッフ自己研鑽を積み上げていきたいと思っております。もちろん医療(治療)が先行しては本末転倒です、「木のみを見ず、森を見る」ように対話を重視したトータルケアを心がけますのでどんな些細な事でもご相談ください。

動物・オーナー・病院は三位一体でなければいい医療は提供できません。是非とも困っていること辛いことを話してください。必ず解決の糸口が見つかるはずです。

今年もよろしくお願いたします。



さくら動物病院

院長 横山篤司

2024年 元日

## 【ワンちゃんの老化について】



みなさんのおうちの子は何歳ですか？

高齢に突入するのは諸説ありますが、小型犬では11歳頃から大型犬では8歳頃からと言われています。

若い時と年を取ってきた時とでは様々な変化がでてきますが、どのような点に注意すべきなのでしょう？

### 老化のサイン

#### ・体型の変化

高齢になると運動量が減り太りやすくなります。また、さらに年を取ると消化吸収能力が低下しはじめ痩せる傾向があります。

#### ・皮膚や被毛の変化

皮膚が乾燥してフケが多くなったり、イボができたりします。

被毛では全体的な量が少なくなる、ツヤやコシがなくなったり白っぽい毛が増えるなどの変化があります。

#### ・目や耳などの変化

白内障がはじまり目が白く濁って視力が低下し、物にぶつかることが増えたり、耳が遠くなって呼んでも反応しないことが増えたり急に触った時にビックリしたりします。

#### ・歯の変化

歯石が目立つようになり、口臭が強くなる、歯が抜ける、片方でしかかまなくなるなどの変化があります。

#### ・行動の変化

睡眠時間が長くなったり、足腰が弱って動きがゆっくりになってきます。

また、トイレの回数が増えたり我慢できなくなり失敗する事も多くなります。

夜泣きなど混乱するような行動が増える子もいます。



他にも犬種や個体差によって様々な変化があり、一緒に暮らしている飼い主さんだからこそ気づける点もたくさんあります。老化による変化はうまく付き合っていく必要がありますが、もし少しでも異常を感じたり心配な時はいつでもご相談ください！



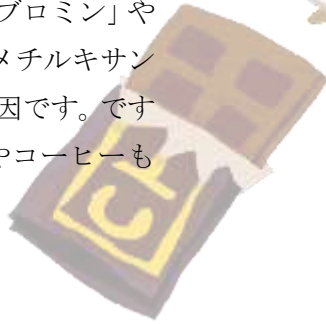
# 身近にある犬猫が食べてはいけないもの

獣医師 小山

今年は暖冬と言われていますが、寒さが堪えるようになってきました。寒いと家で過ごす時間が増えてくるかと思えます。そこで今回、身近なもので犬や猫に有害となるものについて触れてみたいと思います。

## 【チョコレート】

これはとても有名だと思います。チョコレートに含まれる「テオブロミン」や「カフェイン」といった「メチルキサンチン」と言われる物質が原因です。ですので、同じ理由でココアやコーヒーもあげてはいけません。



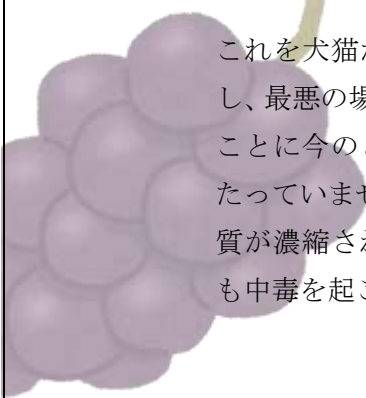
## 【タマネギ】

かなり有名なものその2。犬や猫が食べると溶血を起こし、最悪の場合死に至ります。「長ネギ」「ニンニク」「ニラ」など「ネギ類」と言われる野菜で同じことが起こりえます。



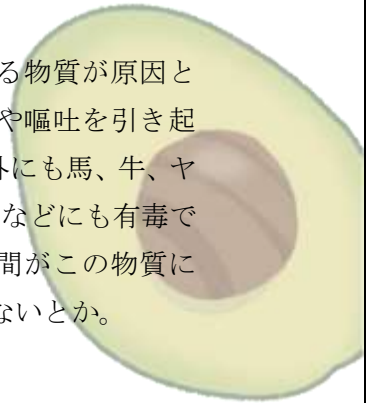
## 【ブドウ】

これを犬猫が摂取すると腎不全を起こし、最悪の場合死に至ります。不思議なことに今のところ原因物質の特定にいたっていません。レーズンだと、原因物質が濃縮されるのか、半分ほどの量でも中毒を起こしうるそうです。



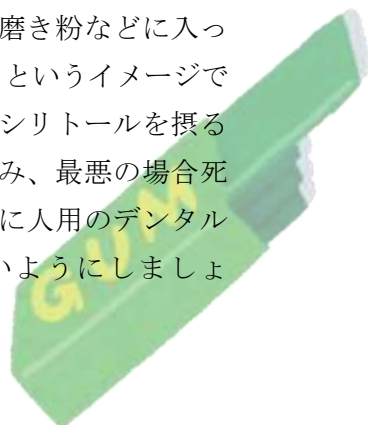
## 【アボカド】

「ペルシン」と言われる物質が原因と言われています。下痢や嘔吐を引き起こします。実は犬猫以外にも馬、牛、ヤギ、ネズミ、ウサギ、鳥などにも有毒であるとのこと。人間がこの物質に強すぎる説もあるとかないとか。



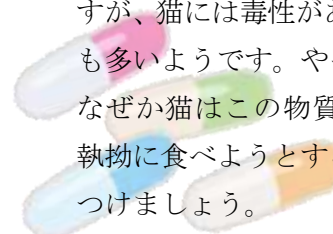
## 【キシリトール】

人間では、ガムや歯磨き粉などに入っていて、「歯に良い」というイメージでしょう。犬や猫がキシリトールを摂ると急激に低血糖が進み、最悪の場合死に至ります。不用意に人用のデンタルケア商品を使わないようにしましょう。



## 【アルファリポ酸】

「なにそれ？」と思われた方もいるかと思えます。サプリメントに含まれることのある成分です。犬にとっては人と同じように有用な場合が多いのですが、猫には毒性があり死に至ることも多いようです。やっかいなことに、なぜか猫はこの物質が入っていると執拗に食べようとするようです。気をつけましょう。





## いつの間に!! 気を付けよう低温やけど!!

この時期に欠かせないのが暖房器具! ストープにお炬燵などを使いますよね。それらには必ず注意事項として「低温やけどに注意しましょう」と言うようなことが書かれています。これは人間だけではなく、犬や猫にも言えることなのです。

今回はそんな低温やけどについて少しお話します。

### ● 低温やけどとは…

- ✓ 体温よりも少し高めの温度、約 44-50℃位の熱源に同じ部位が長時間接することで生じるやけどのことを低温やけどと言う。
- ✓ 通常をやけどに比べると、治りが遅く痛みが長期化しやすい。
- ✓ 低温やけどは、瞬発的な熱さや痛みがないためすぐに気づかず重症化してしまうこともある。

### ● 原因

- ✓ ストープ、お炬燵、ホットカーペット、ペットヒーター、湯たんぽ、カイロ  
これらは安全に思える防寒グッズですが、使い方を間違えると低温やけどの原因となります。また、犬や猫は全身を被毛で覆われているため、熱さが伝わりづらく気づきにくいので、注意が必要となります。

### ● 低温やけどをしないためのポイント

- ✓ **直接触れない**  
カーペットやヒーターを使用するときは直接触れないよう専用のカバーを付けたり、毛布を上に乗せたりしましょう。
- ✓ **逃げ場を作る**  
サークルやケージ内でヒーターなどを使う場合は、全面を温めるのではなく熱さから逃げられるスペースも作ってあげましょう。
- ✓ **高齢・病気の犬猫は特に注意する**  
高齢や病気などで動きが鈍い子、ほとんど寝ている子、寝たきりの子は長時間同じ場所にいることが多いので、特に注意が必要です。こまめに体勢を変えてあげましょう。
- ✓ **皮膚や行動をチェック**  
被毛が薄くなっていたり、同じ場所を頻繁になめている場合は低温やけどになっている可能性がある。動物病院に行き、診察してもらいましょう。

今ではペット用の防寒グッズは様々な種類があります。  
正しく使用すれば、安全に暖を取ることができます。  
生活環境や、その子の性格や体調にあったものを見つけてあげてください。



動物看護師 森泉 🐾

SAKURA ANIMAL CLINIC  
**さくら動物病院**

**長野どうぶつ眼科センター(併設)**

**休診**：火曜日／第四日曜日／  
木・土・日・祝祭日の午後

ホームページはこちら！  
獣医師出勤表、お知らせ随時更新中！



休診日・午後休診は  
当院のホームページまたは  
お電話にてご確認ください。